

## 海城の中1「社会I」の授業を見学



もう一つの授業は「新聞を読んでもよい！」。  
まずは先生から、一般紙(全国紙、プロック紙、地方紙、英字新聞)、政党政、業界紙、スポーツ紙等の話がある。私も知らなかったが、この4月から「The Daily Yomiuri」が「The Japan News」として生まれ変わったという最新の生きたニュースも紹介される。

### 新聞に興味・関心を開きレポートの書き方を学ぶ

合同合間に先生が対立軸を明確にする言葉を差し挟む。この仕切り役が上手でないと話が拡散してしまうものだが、さすがベテランの先生だけあって締まった議論になる。  
こうした授業が成り立つのは、生徒側にも野の広い知識があり、活発に意見を言い合うという土壌があつてこそだ、という感想を持った。

最初は賛成側からの意見表明。「死刑制度があることで殺人が防止されている」、「被害者の家族の恨みを晴らすには死刑しかない」……。反対側が反論する。「死刑は、国が最悪の行動としている殺人を自ら犯していることになる」、「本来の刑罰の機能は犯罪者を改善して社会に戻すことではないのか」……。  
次は反対側が先に述べ、後から賛成側、ということが繰り返される。

「最初は賛成側からの意見表明。『死刑制度があることで殺人が防止されている』、被害者の家族の恨みを晴らすには死刑しかない……。反対側が反論する。『死刑は、国が最悪の行動としている殺人を自ら犯していることになる』、本来の刑罰の機能は犯罪者を改善して社会に戻すことではないのか」……。  
次は反対側が先に述べ、後から賛成側、ということが繰り返される。

### ディスカッション「死刑制度に賛成か反対か」

週4時間の社会。私立中学としては、ごく普通の授業時数である。99%の学校は4時間はすべて系統学習(地理・歴史・公民)の時間。が、海城は、半分の2時間は社会科総合学習である。いったいそこでは何をやっているのか、興味があつたので中1の「社会I」の授業を見に行った。

# 「話す力」「書く力」「読む力」を育てる社会科

授業後、「社会科総合学習」の授業を行っている意味について尋ねた。  
生徒たちは「社会科は暗記教科」と思い込んでいる。そうした生徒たちに、「社会科は生きるための力になる教科であること」を実感させ、それに加えて、社会科学の用語を知っていると社会事象を分析、説明しやすくなる分析装置であることも感じさせたという。  
社会科の先生のいないところで、教頭に尋ねた。  
「常に大学合格実績の向上を求められる海城のような進学校で、こうした授業を実践することに、保護者や他教科、経営側から疑問符はついていないのですか？」  
「22年前のカリキュラム改定時には心配の声もありましたが、社会科は高2・3の授業と数多くの課外講習で十分な大学入試対策をしています。むしろ、大学や社会で求められる学びの実践に、保護者の期待は高いのです」  
社会科の教員団に敬意を払いたく、なつた2時間の授業見学であった。

### 「本当の生きる力」を付けさせたい！社会科教員の熱い思い

「死刑制度」もそうだが、こうした授業だから、定期試験はなく、レポートを提出させ、評価。レポートの採点基準も見せてもらったが、複数の文献を読んで、自ら設定した問題の原因を分析しているか、引用注がきちんとつけられているかなど、8つもの評価項目がきちんと決められていた。

第二次世界大戦で、1941年以降紙の輸入が激減し、そのため多くの新聞が淘汰された、という歴史の知識もさりげなく盛り込まれる。  
「地方紙で知っている新聞あるかな？」と先生が口にしたところ、すかさず「八重山毎日新聞」と、とんでもなくマイナーな新聞名が上がる。  
先生に話を聴く。新聞を授業の材料にしているのはどうですか。  
先生と生徒で共有できる材料  
中身が多様であるから多様な関心から生まれる



安田教育研究所 代表 安田 理 氏

「新しい紳士」を育てる。

## 海城中学校高等学校

〒169-0072 東京都新宿区大久保3-6-1  
TEL 03-3209-5880 FAX 03-3209-6990

<http://www.kaijo.ed.jp/>

海城  検索